

# 歴博だより

Museum of EHIME History and Culture's News

平成17年度巡回展

## いま・むかしおもちゃ大博覧会

—入江正彦 児童文化史コレクション—

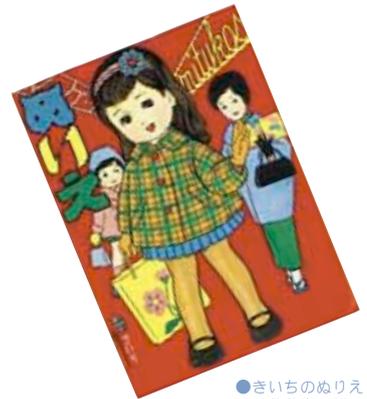
大阪府吹田市の故・入江正彦氏が収集した児童文化史コレクションの中から、江戸時代から現代までのおもちゃなど約400点を紹介します。



●自動菓子販売機 正ちゃん  
大正末期



●鉄人28号 昭和30~40年代  
©光プロダクション



●きいちのぬりえ 昭和30年代  
高谷喜一画



●文化人形 昭和初期



●少年第7巻第5号(6月号)

展示リニューアル情報

### 昭和の街かどが生まれます

### 学芸員調査ノート

別子鉱山図巻／簡単服／窯道具／永代記録帳



少女の友 第32巻第4号  
昭和14年 (1939)



ソニコンロケット  
昭和33年 (1958)



勝手道具  
明治33年 (1900) 頃

# いま★むかしおもちゃ大博覧会

～入江正彦 児童文化史コレクション～

平成17年10月4日[火]～11月27日[日]



東京大博覧会 覗き眼鏡  
明治40年 (1907)



フラフープ人形  
昭和34年 (1959) 頃



おもしろ文庫 海底王国  
昭和30年 (1955)

誰にも共通してある子ども時代。子どもの頃の曖昧な記憶のなかでも、お気に入りのおもちゃで友だちと遊んだ記憶だけは不思議と鮮明に残っているものです。

この展示では、江戸時代から現代までの子どもたちが身近に遊んだおもちゃ約400点を展示します。これらのおもちゃは、実物による子ども文化の研究をめざした故・入江正彦氏が収集した約10万点の資料のなかから厳選したもので、志半ばで急逝した氏の遺志をついで、入江コレクションは一括して兵庫県立歴史博物館に寄贈され、日本有数の子ども文化を物語るコレクションとして展示公開されることになりました。

江戸時代のからくりをはじめ、戦時下の時代が反映されたおもちゃに、ブリキのおもちゃ、着せ替え人形、鉄腕アトムや鉄人28号などの大流行したキャラクターおもちゃの数々。多彩なおもちゃを通じて日本の子ども文化の歩みが見えてきます。懐かしさと新しさが共存する親子三代で楽しめる展示です。



紙メンコ  
昭和30～40年代



しん板福はらみ  
江戸時代末期



ティーンズルックリカちゃん  
©タカラ



玉投げ玩具  
大正時代



軍艦「鹿島」  
明治末期

★特別シアター「懐かしのヒーローたち」

昭和30～40年代を中心に、アニメやテレビで活躍し、子どもたちの大人気となった懐かしのヒーローたちがかえってきます。

□番組スケジュール

- 10月 8日(土) 「鉄腕アトム 地球防衛軍」(約30分)
- 10月 9日(日) 「狼少年ケン」(約30分)
- 10月22日(土) 「ジャングル大帝」(約30分)
- 10月29日(土) 「月光仮面 恐怖のこうもり男」(約30分)
- 11月 6日(日) 「ウルトラマンガラフティ」Ⅰ(約30分)
- 11月13日(日) 「ウルトラマンガラフティ」Ⅱ(約30分)

□時 間 1回目11:00～、2回目14:00～、3回目15:00～

□会 場 当館多目的ホール

◎参加無料(観覧ご希望の方は、上映時間までに会場へお集まりください。)

★ちえのわ教室「バランスゲームをつくらう!!」

コロコロとボールをころがして、あけておいた穴の中に入れていく手のひらサイズのゲームをつくれます。

□日 時 展覧会期間中の土・日曜日 13:00～15:00

□場 所 当館体験学習室

□実 費 50円

★ワークショップ「むかしのあそびたいけん!!」

日光写真であそぼう (実費100円)

リリアンを編んでみよう (実費50円)

モールでキーホルダーづくり (実費100円)

ガリ版で年賀状をつくらう (実費100円)

□日 時 展覧会期間中の土・日曜日 10:00～12:00

□場 所 当館体験学習室

巡回展

いま★むかしおもちゃ大博覧会

～入江正彦 児童文化史コレクション～

会期：2005年 10月4日(火)～11月27日(日)

休館日：毎週月曜日

(ただし、10月10日(月)、11月7日(月)は開館、10月11日(火)は休館)

会場：企画展示室

主催：「いま・むかしおもちゃ大博覧会～入江正彦児童文化史コレクション～」愛媛展実行委員会(愛媛県歴史文化博物館、NHK きんきメディアプラン四国制作センター、愛媛新聞社)

後援：愛媛県市町教育委員会連合会、NHK松山放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM愛媛

企画協力：兵庫県立歴史博物館



盃運び人形  
安永4年(1775)



自動菓子販売機ノキナトウサン  
大正末期



飛行塔  
大正時代

観覧料	巡回展	巡回・常設展共通
大人	500円(400円)	700円(600円)
小中学生	250円(200円)	

\* ( )内は20名以上の団体料金

\* 65歳以上の方は常設展・巡回展とも無料

\* 小中学生は常設展無料

# 昭和の街かどが生まれます

**博** 物館は昨年11月に開館10周年を迎えましたが、これまでに展示の大規模なリニューアルを行ってきませんでした。そこで今回は歴史展示室4「愛媛県の誕生と歩み」の一部をリニューアルすることになりました。

当館では平成14年度に「昭和の街かど」、平成16年度に「昭和の子どもたち」と二度にわたり、昭和をテーマにした企画展を開催しましたが、このリニューアルでは、これらの企画展の世界が常設展示となってよみがえります。

新しく登場する昭和30～40年代の街かどからは、戦後から高度経済成長にかけての人々の暮らしが見えてきます。そこには珍しいものは何もありません。ただ、私たちが生活の中で当たり前に使っていたものがあるだけです。でもよく見ると、移り変わりのはやい現代社会の中で、少し前までは目にしつつも、いつの間にか失われてしまったモノがたくさんつまっています。どうぞ懐かしさいっぱい昭和の街かどをお楽しみください。



information リニューアルされた展示空間は、11月上旬にオープンする予定です。オープン日は決まり次第、博物館ホームページに掲載します。



## ▲リニューアルイメージ図

洋品店、本屋・文具屋、駄菓子屋、応接間・ダイニングキッチンなど、昭和30～40年代の生活空間が再現されます。



## ▲企画展「昭和の子どもたち」展示風景

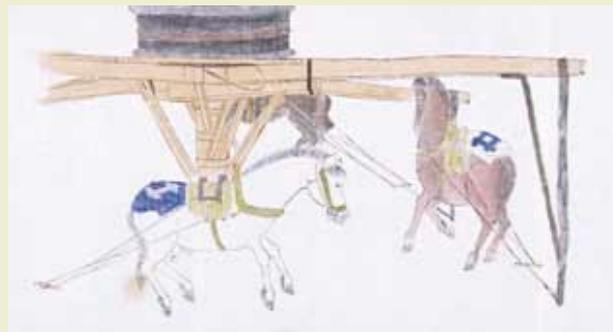
駄菓子屋、文具屋、学校の教室など、昭和30年代の子どもたちになじみのある空間が作りさだめられました。

歴史・文書

民俗

考古

別子銅山は日本を代表する銅山で、元禄四（一六九一）年の開坑以来、昭和四七（一九七二）年に閉山するまで、約二八〇年にわたり大阪の住友家により採掘が行われました。別子銅山で鉱石が採掘され、銅に精錬されていく過程は、住友家が作成した『鼓銅図録』などに描かれています。ですが、それらがいずれも江戸時代の作業工程を表しているのに対して、この絵巻は明治一八年段階の工程が十九の場面に分けて描写されています。



資料名  
べっし こうざん えまき  
**別子鉱山絵巻**  
とうえん しゃこう うまきあげき  
(東延斜坑の馬巻揚機)

年代

明治一八（一八八五）年

サイズ

縦二四、六cm／横七六四cm

所蔵

当館蔵

この時期はフランス人の鉱山技師ラロックがまとめた「別子鉱山目論見書」をもとに、鉱山の近代化が進められた時期にあたります。東延斜坑の馬による巻揚機もラロックが計画したもので、明治二二年の蒸気巻揚機が導入されるまでは、馬が巻きロクロを廻すことで、レールを走るスキップカーを引き上げ、鉱石や土砂を運び出していました。新発見のこの絵巻は、近代化の歩みを始めた別子銅山の様子を私たちに伝えてくれます。

(専門学芸員 井上 淳)

歴史・文書

民俗

考古

このワンピースは単服と呼ばれる女性用の洋服です。製作が簡単で着心地が楽なことから大正末期から昭和初期にかけて流行しました。関東大震災や女性の社会進出など社会の変化に伴い、大正時代の中頃から一般の女性に洋装が紹介され始めます。美的ですが動きにくい和服にかわり、経済的で便利な洋服が推奨されるようになりました。

ところが洋装推進の流れには、「生活のレベルや体型が欧米の人とは違う」という理由で、洋装をそのまま取り入れるのではなく日本人に適した洋装を提唱する動きもありました。例えばこの単服は、蒸し暑い夏を涼しく過ごすために通気性のよい素材でできていますが、当時の欧米ではこのように「下着が透ける洋服」は考えられませんでした。下着は洋服の下に隠すべき物とされていたからです。この単服は、上灘町(当時)で使用されていました。洋装普及期の混乱を表わす興味深い資料です。



資料名  
かんだんふく  
**単服**

年代

昭和初期

サイズ

着丈 101cm

所蔵

当館蔵

\*単服は民俗展示室2（愛媛のくらし）にて展示しています。



資料名  
**窯道具**  
かまじょうぐ  
(松山市辻遺跡4次)

年代

江戸時代後期

サイズ

口径一六cm / 器高一〇cm

所蔵

愛媛県教育委員会蔵

中にうつわなどを入れて、重ね積みして焼成する時に用いられる窯道具の一つで「サヤ」といいます。道路建設に伴う発掘調査では、窯に関する遺構や焼成した製品は見つかりませんが、サヤの他に、敷き板、環トチなどの窯道具が溝からたくさん出土しているため、周辺にやきものの窯の存在が考えられます。

付近では、安永五(一七七六)年に衣山焼というやきものを焼いていたという記録が残っています。

ます。これは豪商の八蔵屋が、信楽(現在の滋賀県)から陶工を招いてやきものを焼成したものの半年で廃窯になったという、まぼろしの窯です。松山藩ともかわりがあったようですが、その実態はわかっていません。

出土したこれらの窯道具類を観察してみると、信楽系の技術により陶器を焼成していたことがうかがえるため、衣山焼に係する道具類の可能性もあります。

このサヤで、どんなやきものをつくっていたのでしょうか？

(学芸員 石岡ひとみ)



表紙



本文

資料名  
**永代記録帳**  
えいたいきろくちよう  
(兵藤家文書)

年代

江戸時代後期

(嘉永七(一八五四)年十一月条)

サイズ

縦四五、〇cm × 横一五、〇cm

所蔵

兵藤正帛氏所蔵・当館保管

嘉永七年十一月初旬に東海・南海・豊後水道で連続発生した大地震(安政東海・南海地震)は、伊予も含め各地に甚大な被害をもたらしました。本史料は新谷藩領喜多郡出海村(大洲市)の庄屋兵藤氏が村の出来事などを書き留めた帳面で、ここにも村内外の地震被害状況が一丁半にわたり記されています。村では屋敷・蔵・石垣等が傷んだものの、幸いにも死傷者は出なかったようです。しかし、大洲藩領郡中(伊予市)では死傷者が数十人出た

ことを伝え、宇和島藩領についても死者の発生と川之石湾岸(八幡浜市)での津波の被害に触れています。また、土佐藩領宿毛(宿毛市)では津波による被害が甚大であったと伝えています。その後余震が二十日間程続いたともあります。さらに、「肝が裂ける程恐ろしい」、「津波は引き際が恐ろしい」といった生々しい感想も残っています。地震時の伊予灘沿岸の村の様子と、周辺地域の情報を伝える貴重な記録です。

(主任学芸員 山内治朋)

\* 窯道具は考古展示室に展示しています。  
\* 永代記録帳は文書展示室に展示しています。



四ツ太鼓と牛鬼の鉢合わせ (伊方町三崎)

## 愛媛の秋祭り

同じ愛媛県の中でも東予・中予・南予では祭り文化が異なります。東予はだんじり・太鼓台、中予は神輿の鉢合わせ、南予は牛鬼・四ツ太鼓等が登場し、各地で華やかで勇壮な祭りが繰り広げられます。今回のロビー展では、県内各地の秋祭り写真(約五十点)や、松山の秋祭りを代表する道後湯之町大神輿(大正時代制作、当館寄託)、内子町長田地区や西予市宇和町東多田で明治時代から使用されていた神楽道具(当館寄託)などの祭り・芸能に関する収蔵資料(約十五点)を展示し、愛媛の祭り文化の多彩性をご紹介します。秋祭りの季節に県内各地の様々な祭り文化に触れてみませんか？

会期：平成17年9月17日[土]ー11月27日[日]  
会場：エントランスホール



「吉田祭礼絵巻」(大正5年写、当館蔵)に描かれた牛鬼

### 季節モノ図鑑 ⑥

## 南予地方の牛鬼

なんよちほう うしおに  
秋祭りの風物詩

「祭酒牛鬼が人のなだれを尾を角を」、この句は俳人河東碧梧(かわひがしきご)が昭和二年に吉田町(現宇和島市)の秋祭りを見た際に詠んだ自由律句です。現在では宇和島市で七月下旬に「うわじま牛鬼まつり」が開催され、牛鬼は夏祭りの象徴とも思われがちですが、夏に牛鬼が登場するようになるのは戦後のことで、南予地方では牛鬼は秋祭りの風物詩として親しまれてきました。牛鬼の登場する秋祭りは十月から十一月中旬にかけて行われますが、特に十一月三日(祝)は吉田町・津島町(現宇和島市)や愛南町内など多くの地域で祭日となっており、牛鬼の祭りを実際に見学するには、この日がお薦めです。

(主任学芸員 大本敬久)

### ちえのわ教室



### からくりおもちゃ バランスゲームを つくろう!!

9月~11月のちえのわ教室では、コロコロと小さなボールをころがして、あけておいた穴の中に入れて遊ぶ、手のひらサイズのゲームをつくりまします。どんな図柄にするかはアイデア次第!

日時：毎週土・日曜日 13:00-16:00  
(受付は15:00まで)

場所：体験学習室  
参加費：50円(材料費)  
お問い合わせ：振興課企画普及係  
0894-62-6222

### これからのよてい

12  
・  
1  
・  
2月  
6月  
3  
・  
4  
・  
5月

でんでん太鼓を  
つくろう!!

たいそう人形を  
つくろう!!

## リニューアル工事のため 展示室の一部を閉鎖します

- 工事期間:平成17年9月27日～10月30日
- 工事場所:歴史展示室4「愛媛県の誕生と歩み」の一部

歴史展示室4「愛媛県の誕生と歩み」では、展示リニューアル工事を上記の日程で行います。この工事とともない、歴史展示室4は一部コーナーを閉鎖します。工事期間中はご観覧の皆さまにご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。

### 企画展開催報告

## 「上黒岩岩陰遺跡とその時代」展



7月16日[土]の企画展オープニングセレモニーでは、多くの方にご参加いただきました。共催いただいた愛媛新聞社の烏谷照雄事業局長、上黒岩岩陰遺跡のある久万高原町からは玉水壽清町長にご出席いただき、西予市の小学生とともにテープカットを行った後、展示室へ移動し、学芸員による解説を交えて観覧しました。今回の企画展では、上黒岩岩陰遺跡の発見や発掘に関わった多くの方々にご協力いただきました。8月7日[日]には、上黒岩岩陰遺跡の1次～5次の発掘調査を行った岡本健児氏（高知女子大学名誉教授）をお招きして、発掘秘話をお話いただき、159の方が熱心に聞き入る様子が印象的でした。



### 講演会

演題:「日本文化の特質について」(仮)  
日時:平成17年11月20日(日) 13:30～15:00  
講師:山本信吉氏(当館名誉館長)

### 歴史文化講座

#### 歴史講座

- 「義経」の時代と伊予  
日時:10月2日(日) 13:30～15:30  
講師:久葉裕可(新居浜市広瀬歴史記念館館長)
- 河野氏と忽那水軍  
日時:10月30日(日) 13:30～15:30  
講師:山内治朋(当館主任学芸員)
- 伊予の甲冑－南予を中心に－  
日時:11月13日(日) 13:30～15:30  
講師:友澤 彰(西条市立小松温芳図書館郷土資料室)
- 「関ヶ原合戦」と伊予  
日時:11月27日(日) 13:30～15:30  
講師:土居聡朋(当館主任学芸員)
- 伊達宗紀の積極的開国策  
日時:2月5日(日) 13:30～15:30  
講師:藤田 正(当館企画普及係長)

#### 民俗講座

- 愛媛の祭礼文化－牛鬼・だんじり・太鼓台－  
日時:10月23日(日) 13:30～15:30  
講師:大本敬久(当館主任学芸員)

#### 文書講座

- 海の庄屋文書を読む①・②  
日時:11月6日(日)・12月11日(日) 13:30～15:30  
講師:大村 博(内子町郷土研究会会長)
- 大洲藩の古文書を読む①・②  
日時:1月22日(日)・2月19日(日) 13:30～15:30  
講師:白石尚寛(大洲市立博物館学芸員)

#### 体験講座

- 凧をつくろう  
日時:10月29日(土) 13:30～15:30  
講師:都築健司(凧作り職人)
- 水引でオリジナル金封をつくろう  
日時:11月19日(土) 13:30～15:30  
講師:今村謙三(伊予水引金封協同組合理事長)
- しめ縄づくり  
日時:12月11日(日) 13:30～15:30  
講師:奥田佐知子(宇和町創作館)
- 火と灯り－火打ち石体験と行灯の明るさ－  
日時:2月4日(土) 13:30～15:30  
講師:大本敬久(当館主任学芸員)

#### お問い合わせ

振興課 企画普及係  
TEL(0894)62-6222 FAX(0894)62-6161



#### 今季の表紙

### 鉄人28号 ©光プロダクション

昭和30～40年代 兵庫県立歴史博物館蔵  
横山光輝の作品「鉄人28号」は、昭和31年に雑誌『少年』のふろくとして世に出ました。少年金田正太郎が操る正義のロボットとして、「鉄腕アトム」とともに、子どもたちの人気を二分しました。昭和38年にはTVアニメ化されました。昭和30～40年代を代表するヒーローです。

愛媛県歴史文化博物館 No.43  
**歴博だより**  
Museum of EHIME History and Culture's News

発行日 平成17年9月1日  
編集/発行 愛媛県歴史文化博物館  
〒797-8511  
西予市宇和町卯之町四丁目11番地2  
TEL(0894)62-6222 FAX(0894)62-6161  
<http://joho.ehime-iinet.or.jp/rek/ihaku>  
印刷 明星印刷工業株式会社